

研究発表会開催通知

(昭和62年3月15日～4月30日)

研究会	日	時	会場	備考
データベース・システム	3月16日(月)	13:30～17:00	機械振興会館	前号参照
コンピュータビジョン	3月17日(火)	10:00～17:00	東工大	同上
自然言語処理	3月27日(金)	13:00～17:00	機械振興会館	同上

* 4月は研究会開催予定がありません。

◆数値解析研究会

62年度の研究会を7月3日(金)於機械振興会館(特集デバイスシミュレーション), 9月19日(土)於京大数理解析研, 12月4日(金)於機械振興会館(特集グリッドジェネレーション), 3月(日未定)於東京地区で開催します。奮って参加, 発表下さい。発表希望の方は規定の各期日までに学会事務局へお申込下さい。

「教育におけるコンピュータ利用の新しい方法」

シンポジウム論文募集

昨今情報処理技術が社会に普及するにつれて, 従来遅れていた学校へのコンピュータ普及率が急速に向上し始めています。同時に教育におけるコンピュータ利用の新しい方法の研究も活発化し, 新しい試みが随所に見られるようになりました。

教育調査委員会では, 標記のシンポジウムを開催し研究発表ならびにパネル討論を行います。論文発表申込締切りが迫りましたので, 早急にご応募ください。なお詳細は前号本欄参照のこと。

日 時 昭和62年6月25日(木)
場 所 機械振興会館 研修1号室(地下3階)
発表申込締切 3月31日(火)
採否決定 4月20日(月)

なお, このシンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いします。

教育調査委員会

委員長 有山正孝 電気通信大学電気通信学部計算機科学科 Tel. 0424 (83) 2161
幹 事 御牧 義 " 電子情報学科 "
" 大槻説乎 九州大学工学部中央計数施設 092 (641) 1101

◆ 研究発表会開催予定（4月～9月）

（研究会名）

（開催日・会場）

自然言語処理	5月22日(金) ATR 9月25日(金) IBM	7月24日(金) 北大
データベース・システム	5月18日(月) IBM 9月21日(月) 機・B3-1	7月20日(月) 東北大
知識工学と人工知能	5月7日(木)・8日(金) 機・B3-研1 7月10日(金)・11日(土) 名大 9月17日(木)・18日(金) 機・B3-研1	
記号処理	6月26日(金) 神戸大	9月 東京
ソフトウェア工学	5月27日(水) 機・6F-65 7月29日(水) 機・B3-2	6月24日(水) 機・B3-2 9月9日(水) 関西
マイクロコンピュータ	6月30日(火) 機・B3-2 9月29日(火) 機・B3-2	7月下旬 札幌
計算機アーキテクチャ	5月13日(水) 機・6F-65 9月16日(水) 機・B3-1	7月10日(金) 徳島大
オペレーティング・システム	6月12日(金) 機・6F-65 9月11日(金)・12日(土) 未定	
コンピュータビジョン	5月21日(木) 静岡大	7月24日(金) 東京
設計自動化	5月21日(木) 機・B3-2	7月16日(木) 機・B3-2
マルチメディア通信と分散処理	5月21日(木) 東京 9月17日(木) 機・B3-1	7月24日(金) 金沢
文書処理とヒューマン インタフェース	5月14日(木) 機・6F-67 9月7日(月) 機・B3-1	7月9日(木) 機・B3-2
グラフィクスとCAD	5月18日(月) 機・B3-2 7月10日(金) NTT 横通	6月15日(月)・16日(火) 未定
数値解析	7月3日(金) 機・B3-2	9月19日(土) 京大・数解
ソフトウェア基礎論	6月26日(金) 機・B3-研1	
情報システム	5月19日(火) 慶大 9月22日(火) 機・B3-2	7月21日(火) 機・B3-2
プログラミング言語	5月22日(金) 機・6F-67 9月16日(水) 京大	7月24日(金) 機・B3-研1
情報学基礎	6月25日(木) 機・B3-1	9月21日(月) 機・B3-2

注) 機 - 機械振興会館
* 各研究会に発表申込希望者は開催月の3カ月前に研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。

昭和 62 年度研究会のお知らせ

昭和 62 年度は、下記の通り 18 研究会で行います。

- 年間を通して参加の場合は登録をお願いします。(但し本学会員に限る。)
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ¥1,000 (学生 ¥500)をいただきます。(但し、部数に制限があります。)

研究会名	主査幹事	取り扱う研究分野の例
1 自然言語処理	○吉田 将 田中穂積 日高 達 野村浩郷	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話理解, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2 データベース・システム	○上林弥彦 石井義興 鈴木健司 大里博志	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB マシン, アーキテクチャ, マルチメディア DB, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB
3 知識工学と人工知能	○堂下修司 西田豊明 米澤明恵	問題解決, 推論, 探索, 類推, 学習, 認知モデル, 知識表現, 知識ベース, 知識獲得, エキスパートシステム, パターン理解, 自然言語理解, AI アーキテクチャ, 応用人工知能
4 記号処理	○和田英一 井田昌之 元吉文男 小川貴英	記号処理言語と処理系, 記号処理の理論と応用(数式処理, 言語処理, ゲーム, 知識ベース, 論理プログラミング, フラグ算法, 関数型言語など), 記号処理アーキテクチャ, 記号処理の技法
5 ソフトウェア工学	○花田收悦 落石浩一郎 春原 猛 紫合 治	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, プログラミング言語, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, エキスパートシステム, 管理, メトリクス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6 マイクロコンピュータ	○若島陸夫 岡田義邦 山田 剛 森本陽二郎	1. マイクロコンピュータ, パーソナルコンピュータ本体の研究 2. 応用システム, OS, 言語, ソフトウェアの研究 3. システム方式, 素子及び周辺機器の研究 4. 入出力方式, 通信方式, 標準化の研究
7 計算機アーキテクチャ	○田中英彦 喜連川優 長谷川隆三	計算機システムの設計・構成・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列アーキテクチャ
8 オペレーティング・システム	○亀田壽夫 紀 一誠 野口健一郎	OS の基礎概念, 構造論, 人間工学的評価, プログラミング環境, 分散処理 OS, 並列処理 OS, 新世代 OS, システム性能評価, モデル化技法, 信頼性
9 コンピュータビジョン	○白井良明 松山隆吉 吉田真澄	画像処理一般, 物体認識, ロボットビジョン, 画像解析, 画像データベース, 画像処理用ハードウェア, 視覚系のモデル
10 設計自動化	○樹下行三 安藤 宏 川西 宏 井上隆秀	LSI/VLSI・プリント板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, シリコンコンパイラ, 設計データベース, 知識ベース CAD, 設計検証・テスト評価
11 マルチメディア通信と分散処理	○松下 温 浦野義頼 若山博文 山崎清明	1. マルチメディアによる高度情報通信ネットワークの構築技術とその応用 2. 機能分散, 負荷分散などの分散処理システムの設計と運用技術
12 文書処理とヒューマンインタフェース(日本語文書処理)	○木村 泉 角田博保 首藤正道 黒須正明	1. 計算機システムのヒューマンインタフェース 2. 思考メカニズムとメンタルモデル 3. 日本語入力方式 4. 文書処理方式と制御言語 5. OA とのかかわり
13 グラフィクスと CAD	○川合 慧 中島正之 守屋慎次 真名垣昌夫	グラフィクス ソフトウェア, グラフィクス ハードウェア, グラフィクス言語, 標準化, 図形処理と表示のアルゴリズム, 形状処理, 表示技術, アニメーション, ユーザインタフェース, 図形データベース, 図面の認識と理解, ワークステーション, CAD/CAM, AI の CAD への応用
14 数値解析	○森 正武 唐木幸比古 福井義成 野寺 隆	数値計算とその解析, スーパーコンピュータによる超大型計算, 数学ソフトウェアの移植, 数式処理との結合, 計算機や言語への提案
15 ソフトウェア基礎論	○広瀬 健 佐々政孝 新田克己 所真理雄	1. ソフトウェアの理論的基礎: 形式的仕様記述と検証, 並列・分散処理など 2. 計算モデル: 論理型, 関数型など 3. プログラミングの基礎: 自動合成と変換, パラダイムなど
16 情報システム	○浦 昭二 岩丸良明 松谷泰行 橋本茂司	情報ニーズの分析, 情報システム(OIS, MIS, 情報サービスなど)の設計・構築・利用, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17 プログラミング言語	○斉藤信男 石畑 清 安村通晃 寛 捷彦	1. プログラミング言語の基礎理論(構文論, メタ言語) 2. プログラミング概念の形式的記述(データ構造論, 並行処理論, プログラムの検証, 言語設計) 3. 言語処理系の理論と実際 4. プログラミング支援環境(編集系, デバッガ, ユーザインタフェース)
18 情報学基礎	○藤原 譲 有川節夫 中村史朗 富永英義	1. データ・知識整備: 記述, 表現, 識別, 分類, 評価など 2. データ・知識流通: 媒体, 変換, 標準化, 多言語アクセスなど 3. データ・知識の基礎理論

昭和 62 年度研究会（新規）登録申込書

登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください（61 年度に登録された方は使用できません。）
- 2) 61 年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「昭和 62 年度研究会の登録について（お願い）」を送付いたします（3 月上旬）。
- 3) 登録は本学会員に限ります。各研究会登録費は年間下表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受け付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録ください。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おきください。

（ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること）

昭和 年 月 日

申込み	研究会名	登録費	申込み	研究会名	登録費
	自然言語処理	3,000円		設計自動化	3,000円
	データベース・システム	3,000円		マルチメディア通信と分散処理	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		文書処理とヒューマンインタフェース	3,000円
	記号処理	2,500円		グラフィクスと CAD	2,500円
	ソフトウェア工学	3,000円		数値解析	2,500円
	マイクロコンピュータ	2,500円		ソフトウェア基礎論	2,500円
	計算機アーキテクチャ	2,500円		情報システム	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		プログラミング言語	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円		情報学基礎	2,500円

- （フリガナ）
- 申込み会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____
- 勤務先名・所属 _____ Tel. _____
- 所在地（〒 _____）

- 資料送付先（上記勤務先以外の場合のみ記入）

（〒 _____）

- 登録費（年間）2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件 合計 _____ 円也

- 次のいずれかの方法でご送金ください。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。

なお、会社名などで送金の場合は、別途個人名を事務局までお知らせください。

- 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。 現金持参
- 郵便払込：払込用紙に希望研究会名を記入のこと。 口座番号「東京 5-83484」
- 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店（普）No. 1013945

- 払込み日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

- 情報処理学会の請求書（ 通 ），見積書（ 通 ），納品書（ 通 ）が必要です。

（社）情報処理学会 研究会係 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03(505)0505

- * 登録者の氏名、連絡先のデータをFDに入れ、それを研究会活動の活発化に役立てるため利用したいとの要望が研究会主査（運営責任者）から出されております。

つきましては、お手数ですがFDの利用について支障なし、ありの別をご記入ください。

FDの利用 支障なし・あり

昭和 年 月 日

研究会発表申込書

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会									
発表希望の 研究会開催日	昭和	年	月	日	()					
タイトル										
発表者名 (略称所属)										
概要 (50 字以内)										
原稿用紙送付先住所	〒					Tel.	—	—	(内線)
氏名										

昭和 年 月 日受付

研究会名

資料 No.

開催日

幹事送付済み

その他

		昭和 年 月 日		
--	--	----------	--	--

新年度にあたって（お願い）

—会費・購読費の納入，新会員勧誘など—

新年度にあたって，会員の皆様につきの点につきご確認いただき，あわせてご協力のほどお願いいたします。

（１）62年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

1月下旬に会員個々に納付書（郵便振替用紙）を送付いたしました。未納の方は早急にご納入ください。

なお，本年3月に大学学部卒業予定の学生会員には，62年度会費は正会員（7,200円）として請求してあります。大学院修士課程に進まれた方は，学生会員として継続できますので，納付依頼書の記事を参照のうえ，会員番号を付し，大学院名・研究科名・専攻名，修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

（２）滞納会費の納入

61年度会費未納者には，これまで再三にわたり請求いたしておりますが，このたびの請求によっても納付いただけない場合には，本学会から除名することがありますので，ご承知ください。

（３）学会誌の送本先変更

勤務先，自宅住所に異動のある方は，必ず所定の「変更連絡届」用紙（4月号，10月号に添付）にて会員番号を付し，早速にご連絡ください。

（４）退 会

書面（様式任意，はがき可）にてお申出ください。なお，61年度会費が未納の場合には，昨年4月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

（５）論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は2月号に添付の申込書を使用して，お申し込みください。

（６）新入会員の勧誘

3月，4月は新入会のチャンスです。入会申込書を本号末尾に綴込みましたので，入会をご勧誘ください。

論文誌，欧文誌の購読のおすすめ

論文誌，欧文誌の62年度からのご購読をおすすめいたします。前号に綴じ込みの申込書（受取人払い）により，早速にお申込みください。

なお，購読費は，62年6月の会費請求時に，請求させていただきます。

昭和 62 年度各種行事の予告について

4 月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご注意ください。

行 事	期 日	会 場
第 28 回通常総会	5・20 (水)	機械振興会館
第 35 回全国大会	9・28 (月)～30 (水)	北海道大学工学部・ 教養部
第 36 回全国大会	63・3 中旬	(東京)

(シンポジウム)

教育におけるコンピュータ利用の新しい 方法	6・25 (木)	機械振興会館
1987 年夏のシンポジウム	7・16 (木)～18 (土)	CSK 研修センター
第 20 回 情報科学若手の会	(8月)	(未定)
コンピュータ・システム	11・5 (木)～6 (金)	機械振興会館
新しい情報通信——1995 年を展望して (仮題)	11・9 (月)	〃
マイクロコンピュータの現状と将来 (仮題)	11・16 (月)～17 (火)	〃
人工知能システムの枠組	11・19 (木)～20 (金)	〃
アドバンスト・データベース	12・3 (木)～4 (金)	〃
グラフィクスと CAD	12・10 (木)～11 (金)	〃
第 29 回 プログラミング・シンポジウム	63・1・12 (火)～14 (木)	箱根・ホテル小涌園
1988 情報学	(1月)	日本学会議講堂
自然言語処理技術 (講習会)	1・21 (木)～22 (金)	機械振興会館
幾何情報とモデルの入手法	9・17 (木)	〃

(共 催)

Workshop on CAD Engines	6・8 (月)～9 (火)	機械振興会館
13th IFIP Conf. on System Modelling and Optimization	8・31 (月)～9・14 (金)	中央大学理工学部
昭和 62 年電気・情報関連学会連合大会	9・10 (木)～12 (土)	工学院大学
5th Int'l. Workshop on DB Machines	10・5 (月)～8 (木)	軽井沢・万平ホテル
COMPSAC '87 国際会議	10・5 (月)～9 (金)	高輪プリンスホテル
第 18 回 画像工学コンファレンス	(未定)	

情報処理学会第 34 回 全国大会(昭和 62 年前期)参加について

- 開催期日 昭和 62 年 3 月 18 日(水)～20 日(金)
会場 日本大学・理工学部・習志野校舎(千葉県船橋市習志野台)
プログラム 詳細は前号黄色のページに掲載してあります。交通、会場等はプログラム末尾の会場案内図を参照してください。

一般参加の方へ

1. 総受付 日本大学・理工学部・習志野校舎 12 号館ロビー
2. 参加費 会員 1,000 円(賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます.)
非会員 2,000 円(ただし電気, 電子情報通信, 照明, テレビジョンの各学会会員は会員扱いとします。会員番号を申し出てください。)
3. 論文集 定価 6,000 円(予約は締切りました)
(当日, 予約者以外にお頒けできるのは, 残部のある場合に限りです。)

◎ 参加される方は, 総受付にて参加費を納め, 参加章を受けとってください。参加章のない方は会場に入れません。

一般講演を行う方へ

1. 講演者は, 講演の始まる前に, 必ず各セッション会場前の講演者受付で, 出席の確認を受けてください。
2. 講演者は, 前の講演者の講演時間中に, 座長席の前に設けられた「講演者控」で待機するようにしてください。
3. 一般講演の時間は, 質疑を含めて, 15 分を原則とします(都合により 13 分のセッションもあります)。講演中でも時間がくれば打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の 5 分前および 3 分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代読は認めません。

(その他の一般注意)

1. 食堂: 学生食堂, 休憩室等はプログラムの会場案内図参照のこと。
2. 電話の呼び出しはいたしません(万一直るを得ない場合のみ, 伝言板に掲示: Tel. 0474-66-9499)。
3. 駐車場がないので, 自家用車による参加はできません。

学術奨励賞の表彰 大会初日(18日)10時より第 33 回大会受賞者の表彰を A 会場で行います。

学術奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後10年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約10名を選び、学術奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る3月18日～20日に日本大学理工学部で開催される第34回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者1名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第34回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は学術奨励賞委員会（委員長 浦副会長）で行い、その発表と表彰は本年9月に開催の第35回全国大会（北海道大学）時に行われる予定です。

記

選定範囲および推薦数

第34回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者1名。

推薦資格 本学会正会員に限る。

推薦方法 官製はがきに、推薦する論文の①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校（学部）卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会学術奨励賞係あてお送りください。

推薦締切 昭和62年3月31日（当日消印有効）

表 彰 規 程（抜 粋）

第5章 学術奨励賞

第19条 学術奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第20条 学術奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第1回の委員会開催時とする）。
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後10年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第21条 第20条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第22条 学術奨励賞は、毎回約10名ずつ選定し、贈呈する。

第23条 学術奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

2. 賞金は、1名につき20,000円とする。

情報処理学会第 35 回 全国大会論文募集要領

開催期日 昭和 62 年 9 月 28 日(月)～30 日(水)
会場 北海道大学・工学部・教養部(札幌市北区 13 条西 8 丁目)
応募資格 本学会個人会員(正会員, 学生会員)に限ります。共同発表の場合には, 登壇発表者は会員でなければなりません。なお, 62 年度会費未納の会員は, 登壇発表ができません。また, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には申込みを受け付けません。入会申込書は本号巻末に添付してあります。(電気, 電子情報通信, 照明, テレビジョン各学会会員は全国大会の参加・発表は会員扱いとします。)

論文該当分野

1. 基礎理論および数値処理
a. 計算理論, b. アルゴリズム, c. ソフトウェア基礎, d. 数値計算, e. 数式処理
f. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
3. オペレーティングシステム
4. データベースシステム
5. ネットワークおよび分散処理
6. プログラミング言語とその処理系
a. 手続き型言語, b. 関数型言語, c. オブジェクト指向型言語, d. 論理型言語
e. その他の言語, f. 処理系実現手法
g. その他
7. ソフトウェア工学
a. 要求定義技法, b. 設計技法, c. プログラミング技法(エディタ等), d. テスト技法(デバッグ等), e. 支援環境, f. 開発・保守・運用, g. 品質・信頼性, h. 仕様作成・プログラム合成, i. その他
8. 自然言語処理
a. 解析および生成, b. 機械翻訳, c. 自然言語理解, d. 辞書・データ分析, e. テキスト処理, f. その他
9. 知識情報処理
a. 知識表現, b. 知識利用, c. 推論方式, d. 知識ベース, e. 問題解決, f. 知識プログラミング, g. エキスパートシステム, h. 知的インタフェース, i. 学習
j. その他
10. パターン処理
a. 文字認識, b. 音声, c. 図面処理
d. 画像処理, e. 画像データベース, f. 画像処理エキスパートシステム, g. ロボット, h. 画像理解, i. 画像計測, j. その他
11. デザインオートメーションおよびコンピュータグラフィクス
a. CAD, b. CAE, c. CAM, d. グラフィクス, e. シミュレーション, f. その他
12. オフィスオートメーション
13. 応用システム
a. 情報システム, b. ニューメディア
c. 教育への応用, d. 芸術への応用, e. 産業への応用, f. 社会への応用, g. 情報処理教育, h. シミュレーション, i. その他

- 申込料** 講演参加費をいただきます。ただし, 論文集原稿を提出する際に納入してください。なお, 講演申込を取消されても納入していただきます。
- 申込方法** 添付の講演申込用紙(1 件 1 枚)に必要な事項を記入し, 宛先明記の原稿用紙送付用封筒を同封のうえ, 62 年 4 月 28 日(火)までに(必着), 下記申込先へお送りください。登壇発表は原則として 1 人 1 件とします。ただし, やむを得ず 2 件以上になる場合にも, 1 件ずつごとに講演参加費は別途いただきます(ただし, 論文集は 1 冊です)。なお, 連続発表希望の場合は, その旨を必ず明記してください。
- 論文提出** 所定の原稿用紙を 6 月上旬に送付しますので, 昭和 62 年 7 月 20 日(月)までにご提出ください。発表は日本語または英語で行うものとし, 論文は日本語または英語に限ります。ただし, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には, 原稿用紙を送付しませんのでご注意ください。なお, 大会発表の全論文を JICST の JOIS に入力することとなっております。所定の用紙に標題, 発表者名とアブストラクト(150 字以内)を記述して, 論文と一緒に提出していただきます。
- 表彰** 優秀な論文を登壇発表した新進の会員(学部卒業後 10 年未満またはこれと同等の者)には, 学術奨励賞を贈呈し, 次期大会時に表彰いたします。
- 申込先** 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 第 35 回全国大会係
Tel. 03 (505) 0505

「画像処理エキスパートシステム」特集号の論文募集

論文誌編集委員会

情報処理学会論文誌編集委員会では、画像処理と知識工学の融合した新しい画像処理技術が急速に発展しようとしていることに鑑み、論文誌にて、「画像処理エキスパートシステム」特集号を昭和 63 年 1 月を目標に発行することいたしました。このテーマに関する論文を会員から募集しますので、下記をご参照のうえ、奮って寄稿されますよう切望いたします。

1. 対象分野

画像処理エキスパートシステムに関する研究

2. 論文の執筆と取扱い

以下の点を除き通常の一般論文と同一としますので、論文誌原稿執筆のしおりをご参照のうえ、執筆・寄稿をお願いいたします。

(1) 特集号にできるだけ多数の論文を掲載するため、論文のページ数は 1 件 8 ページ（刷上り）以内に厳守してください。

(3) 論文には「画像処理エキスパートシステム」特集号論文と朱記すること。なお、特集号としての総ページ数制限を守るため、応募論文の中から通常の一般論文にまわす場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、査読後の再提出期間（通常は 90 日）は短縮する場合があります。

3. 論文寄稿締切日 昭和 62 年 5 月 30 日（土）必着

「IFIP Workshop on CAD Engines」開催について

標記ワークショップの参加者を下記のとおり募集いたします。

日 時	1987 年 6 月 8 日(月), 9 日(火)
場 所	東京・機械振興会館 研修 1 号室 (地下 3 階)
主 催	情報処理学会, IFIP WG 10.5
後 援	電子情報通信学会, IEEE Computer Society
主 題	VLSI 設計を加速する CAD エンジン (専用ハードウェア) の研究, 開発, 応用に関する討論
	● CAD engines for various phases of VLSI design including logic simulation, fault simulation, circuit simulation and layout.
	● Acceleration of CAD tools by means of computing devices with special architecture such as array processors, microcoded processors and specially hard-wired machines.

- 発表形式**
- 公用語は英語. Proceedings なし. カメラ・テープレコーダの持込み禁止.
 - 原則としてすべての参加者は論文発表(申込締切済)または討論への参加が期待されます.
- 申込方法**
- 所定の申込用紙(70円切手を同封して下記宛請求してください)に必要事項を記入のうえ, 4月28日(火)までに下記へお送りください.
 - なお, 人数制限(約60人)のため参加をお断りする場合がありますので, あらかじめご了承ください.

資料請求および申込先

〒113 東京都文京区本郷 2-40-14 山崎ビル (財)日本学会事務センター
Tel. 03 (817) 5831 FAX 03 (817) 5836

第5回 データベースマシン国際ワークショップ日本開催と論文募集

標記国際会議は情報処理学会とICOT(新世代コンピュータ技術開発機構)で本年10月軽井沢において共催いたします. これまで, フローレンス, サンディエゴ, ミュンヘン, バハマの各地で開かれ, 今回が第5回です. 論文要綱がきまりましたのでご準備ください.

正式名称 The 5th International Workshop on Database Machines

日 時 1987年10月5日(月)~8日(木)

会 場 長野県軽井沢 万平ホテル

論文募集要綱 締 切 り 1987年5月15日(金)

論文体裁 フルペーパー 5部 5,000語, 英文

主なテーマ データベースマシン, 知識ベースマシンに関する
以下のトピックス

Database Machines

Database Machine Architecture

Filter Processors/Sorting Processors

High Performance Secondary Storage Systems

Software for Database Machines

Performance Evaluation

Main Memory Based Database Machines

Knowledge Base Machines

Knowledge Base Machine Architecture

Semantic Network Machines

Production System Machines

Prolog Machines

Software for Knowledge Base Machines

AI Machine Architecture

問合せ先 〒107 東京都港区六本木 7-22-1 東京大学生産技術研究所

喜連川 優 Tel. 03(402)6231 Fax 03(423)2834

Call for Papers を必要な方はお申出ください.

欧文誌の原稿募集について

本学会欧文誌「Journal of Information Processing (JIP)」に積極的に論文をお寄せください。投稿規定の詳細は JIP 各巻第 1 号に掲載されていますからご参照ください。JIP では (1) 掲載論文について、英文を母国語民に手入れしてもらうことができます。また (2) 論文の著者は掲載誌 10 部を、望む海外の寄贈先に送ることができます。なお (3) 目下査読期間短縮のため、種々の手を打っています。なお、以下にその要約を示します。

欧文誌の性格、掲載論文種別

JIP は英文による学術雑誌である。掲載論文等は (1) 原著論文, (2) ショートノート, (3) 学会出版物のアブストラクト, (4) その他, とする。(1)と(2)を募集する。

A. 投稿方法

(1) 原稿は 4 部提出する。原著論文は刷り上がり 8 ページ以内を一応の目安とする。ショートノートは 2 ページ以内に限る。

(2) 図面は原則として原本を提出する。

(3) 著者紹介(英文)および写真を添付すること。

(4) アブストラクトは 3 種必要である。すなわち,

a 論文冒頭に掲げる英文アブストラクト(原著論文では 200 語以内, ショートノートでは 50 語以内)。

b 前項の和訳。「情報処理」に掲載される。

c 刷り上がり 1 ページ(表題, 著者名などを含めて)の和文要約。図, 表等を含んでよい。和文論文誌に掲載される。ただしショートノートにあっては刷り上がり 0.5 ページとする。それだけを見れば論文の性格はわかり, 読者に読んでみたいという気を起こさせるようなものであることが望ましい。

なお著者が日本人でない場合には(b)を省略し,(c)は英語版を提出することにしてもよい。その場合は編集委員会で必要な翻訳をおこなう。

(5) 査読割当ての便宜のため, 所定の質問表に回答を記入して添付すること。

(6) 著者の所属, 郵便送付先を明示した書状を添えること。日本語でも可。

B. 原稿の形式

(1) A判用紙(21 cm×30 cm)の片面にダブルスペースでタイプ打ちを原則とする。用紙寸法は 8.5"×11" (レターサイズ)でもよい。たとえば 1 行 65 文字, 1 ページ 28 行とし, 上下 3 cm(強)の余白を残し, パラグラフの先頭を 5 字分あける。ただし印字品質が十分よくて読み違いの恐れがなく, 査読者が書き込みをするためのスペースが十分あり, かつ分量の計算が容易にできるようなものであれば, これ以外の形式(たとえばレーザービームプリンタの出力)であっても差し支えない。刷り上がり 1 ページは, 通常のテキストでは 1,000 語程度であるが, 図等があればその分のスペースを考慮すること。

(2) 前節 A の(4)に記載のとおりのアブストラクトを含めること。

(3) 表題, 著者名, および所属は別紙とする。共著の場合には, 著者と所属の間の対応を明示すること。

(4) 引用文献リストは「JIP」形式による。くわしくは英文投稿規定または最近の JIP を参照のこと。

(5) 図のキャプションをまとめて別紙に示すこと。

(6) その他英文原稿作成の常識にしたがうこと。

C. 図面の形式

(1) 図は学会ではトレースができないので、鮮明で汚れがなく、コントラストのよいものを提出する。

(2) できればA4判の用紙等を用いる。レターサイズでもよい。

(3) グラフは座標軸のみとするか、主だった格子のみ示すこと。

(4) レタリングが小さくなりすぎないように注意する。

(5) 写真は光沢焼きとし、十分なコントラストと濃淡を持つ常識的な寸法のものとする
こと。

(6) 図面原本には裏面に鉛筆で番号を振り、著者名を書いておくこと。

D. 査読

投稿原稿は査読される。採否の最終的判断は編集委員会でおこなうが、内容についての最終的責任は著者にある。

E. その他

(1) 投稿原稿は返却しない。

(2) 掲載論文等の著作権は学会に帰属する。

(3) 著者または著者の所属先に、別刷100部を下記価格で購入していただく。

Pages	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Prices	¥5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000